

沖縄県民の水高濃度汚染

在日米軍専用墓地面積の7割が集中する沖縄県は、人体に有害な有機フッ素化合物PFAS(ピーファス)の被覆が最も集中しています。日米地位協定という巨大な壁にて、県や住民たちは立ち向かっています。

(小林司)

沖縄で最初にPFAS汚染が発見したのが、2011年1月に真木善商が発表した、北谷浄水場(北谷町)の取水源となっていた河川や地下水のPFASの一種であるPFOS(ピーフォス)による高濃度汚染でした。企業局は米軍墓地納入地(北谷町など1市2町)内から同浄水場の取水の川に流入する川で高濃度が検査されています。

追及
PFA
有機フッ素化合物

出来たじゅうかの「発生源は敷地外納地の可能性が高い」と指摘しました。

北谷浄水場は市町村に給水しており、住民は約45万人に影響。住民は重苦く、浄水器の取り付けやペットボトルの使用などの「面倒」を余儀なくされていました。

企業局は同年6月、米軍に立ち入り調査を申請しましたが、回答が来ず、2012年近くだった現在も同

基礎への立ち入りは実現しません。

米側は回答せず、

県は同じく米軍や国と交渉を継続、企業局が20年以内に同墓地への立ち入りについての回復の申請を行いました。県は米軍普天間基地(宜野湾市)についても19年2月に立ち入り申請をしていますが、両申請に對して米側は回答をしていません。

基礎の立ち入りを拒否する根拠になつてゐるが、米軍による基礎の排他的管理権を定めた日米地位協定の条です。

治外法的な特権に対する批評が高まつたことを受け、田米同政府は15年9月に日米地位協定の「環境補足協定」に署名。環境に影響を及ぼす事故が現に発生

した場合などに両政府でつくる合同委員会が立ち入り手続きを定めるとしています。

しかし、事故が発生しても米側から日本政府に連絡が行われない限り、自治体は現地視察やサンプル採取の申請ができません。

同協定に基づいて在沖縄米軍墓地への立ち入り調査が認められたのは20年4月の普天間墓地からの廃消火部流出事故の際など2件のみです。

一方、ドイツ、イタリアなど欧州各国が米軍と結んでいる地位協定では、受け入れ国側の立ち入り権が確保されています。ドイツでは2010年以降、当局がPFAS汚染の疑いのある軍施設・区域を調査し、25カ所で汚染を確認。うち1カ所は米軍墓地です。

沖縄で住民のPFAS汚染を及ぼす事故が現に発生



普天間墓地から流れ出す泡
消防剤=2020年4月10日、
沖縄県宜野湾市(市民提供)

PFAS 有機フッ素化合物のうちペルフルオロアルキル化合物がありフルオロアルキル化合物の総称。自然界にはほとんど存在せず、環境中で分解されず、人体に蓄積され、発がん性が疑われています。米軍墓地では泡消火剤に用いられてきました。この事故が原因で、沖縄で住民のPFAS汚染を及ぼす事故が現に発生

追及

PFAS

有機フッ素化合物



PFAS血中濃度の基準値超過の状況

	検査数	米勧告値超過人数
北谷	59	45 (76.3%)
金武	54	36 (66.7%)
宜野湾 (新友名)	50	32 (64.0%)
沖縄	56	29 (51.8%)
宜野湾 (長田)	59	28 (47.5%)
嘉手納	51	24 (47.1%)
大宜味	58	15 (25.9%)
合計	387	209 (54.0%)
全検査数		ドライバーリミット値超過人数
	387	27 (6.98%)

※米国の勧告値は、PFAS 7種の合計が1.3ppmあたり20%が、超過人数(%)は8種の合算が20%以上。ドイツの管理目標値は、PFOSが20、PFOAが10%です。

※有機フッ素化合物(PFAS)汚染から市民の生命を守る連絡会まとめ

沖縄県土壌調査 測定結果

	PFOS	PFOA
普天間基地に隣接する小学校	6.6	0.7
宜野湾市①	0.6	0.4
宜野湾市②	0.7	0.4
嘉手納町	0.5	0.3
糸満市(比較のため)	0.4	0.5

宜野湾ちゅうりゅう水会 土壌調査 測定結果

(普天間基地に隣接する小学校)		
グラウンド	定量下限値	定量下限値
東側	0.2未満	0.2未満
グラウンド南側	0.7	0.3
裏門付近	1.1	0.6

※単位: ナノグラム/グラム

※定量下限値=一定の分離の検知が可能な最小量
※地下河水への汚染を防止するためのBPA基準値は1グラムあたり0.038ナノグラム

「水守れ立上がれ田中」
1面のつづき

沖縄県は大きな河川がない。雨水が飲料水生活・農業用水として畠の生活を支え、人々に愛されています。中でも真野瀬市は海水の名所で、国指定有形文化財に指定されている「チュンガーカー」も存在しています。しかしここで水も豈むたの污染が発生しています。20年4月に沖縄普天間基地から、PFOAの1つであるPFOSを含む消防剤が大量流出。市内が泡まみれたなどの事故が発生しています。

“水守れ立上がれ田中”

「生命に一番必要な水

日本共産党中央委員会

△お題に積極的に取り組む

△議論も終わる

△議論が行われます。

△議論が行われました。

△議論が行われました。

す。真城さんは9年、仲

組の議員は4人がいる人

へ、議論も終わる

△議論が行われます。

△議論が行われました。

△議論が行われました。

△議論が行われました。

で、日本共産党中央委員会で

議論も含む会議は

議論も含む会議は

議論も含む会議は

議論も含む会議は

議論も含む会議は

議論も含む会議は

△議論も含む会議は

議論も含む会議は

議論も含む会議は

議論も含む会議は

議論も含む会議は

議論も含む会議は

議論も含む会議は



宮城優さん

「生命に一番必要な水を守るために、北谷町の水会を結成しました。」と語る宮城優さん(58)。昨年9月に行われた市議選では、北谷町議選で初当選した一人です。

土壌調査を実施する。北谷町の住民権由美さん(36)は、「無断闊歩も母親になりたくない」と、FAS問題の解決を求めて、北谷町議選で初当選した一人です。

Sが開設付近で約29倍、グラウンド南側で約18倍。月、普天間基地に隣接する小学校の土壌調査を実施。結果、米環境保護局は土壌におけるPFOSが検出され深刻な状況が明らかになりました。西は土壌におけるPFOAが検出され、PFOAの一種のBPA(A)の地下水への調査では米軍施設周辺にない糸満市の土壌を單に比べて、糸満市内の土壌を单

に比較して、PFOAが18倍検出されました。これは、北谷町議選で初当選した一人です。伊宗根さんは、「私は、この調査結果を呼びかけた」と語ります。

必死で、PFAS問題に取り組んでいた伊宗根さんは、「私は、この問題に取り組んでいた伊宗根さんは、必ず、ほんの国では基础设施が整化してしまった。しかし、他の国では基础设施が整化してしまったが、何をしないでいるのか」と憤ります。

必死で、PFAS問題に取り組んでいた伊宗根さんは、「私は、この問題に取り組んでいた伊宗根さんは、必ず、ほんの国では基础设施が整化してしまったが、何をしないでいるのか」と憤ります。

必死で、PFAS問題に取り組んでいた伊宗根さんは、「